

美郷町と石見ワイナリー(大田)

大和荘核「リゾート」構想

事業案合意

粕渚トンネル跡地 ワインカフェに 観光客呼び込み図る

美郷町とワイン製造販売の「石見ワイナリー」(大田市大田町)が19日、2021年にオープンを目指す町有宿泊施設「潮温泉大和荘」(美郷町長藤)の事業案「ワイナリー・リゾート・タウン構想」を発表した。同施設を中核に旧J.R.三江線のトンネルをワイン貯蔵庫兼カフェとして利用するなど、大胆なアイデアで県内外の観光客呼び込みを図る。

(堀江純一郎)

同町によると、新しい大和荘は鉄筋コンクリート造りの3階建て。敷地面積は約4500平方メートルで、客室



合意書を披露する嘉戸隆美郷町長(左)と石見ワイナリーの浅田博昭社長

は全26室を予定している。大和荘では、大和荘と、町開発公社が運営するカヌーの里(同町亀村)、ゴールデンユートピアおおち(同町粕渚)などの観光施設との連携観光ルートを構築し、利用客を町内で循環させる。また、石見ワイナリーのノウハウを生かし、同町粕渚にある旧三江線粕渚トンネル跡地をワイン貯蔵庫兼ワインカフェとして再利用する。

同町粕渚のみさと館で嘉戸隆町長と石見ワイナリーの浅田博昭社長が合意書を交わし、事業案を発表した。両者は今後、町有施設の指定管理者との調整、トンネルや鉄道施設の譲渡についてJ.R.西日本との協議を進めるとした。

嘉戸町長は「施設を核に新しい地域振興の展開と、観光客を招く起爆剤にするなど攻めの姿勢で取り組む」とし、浅田社長は「地域全体をワインで町おこししたい」と意気込んだ。

大和荘は、1972年に建てられた施設が老朽化したため同町がすでに解体し、現地建て替えを計画している。同町は今年、指定管理者候補に石見ワイナリーを選んでいた。

企画展「たたら」

来場者1万人

出雲歴博

県立古代出雲歴史博物館(出雲市大社町杵築東)で開催中の企画展「たたら」